



地域活性化拠点

地域住民が創出した農を活かした

秋津野ガルテン（和歌山県田辺市）

■ プロジェクト実現のプロセス

全国的に農山村地域の過疎化や高齢化が進むなかで、これに危機を感じた上秋津地区の住民は「秋津野ガルデン」を建設し、地域が育んできた伝統や風土を大切にしながら「農との暮らし」を基軸に地域の活性化に結びつく事業を行っている。住民が地域の活性化のために、自ら出資し活

動している成功事例は全国的にも珍しく、テレビや新聞の取材も多い。

秋津野ガルデンがある田辺市上秋津地区は大阪から特急電車で約2時間、和歌山県のほぼ中央部に位置し、温州ミカンをはじめとする多種多様な柑橘類が栽培されている温暖な土地である。

もともと、上秋津地区は旧村合併時に「村有財産は将来、地域を支える

子どもたちに有効的に使うべき」との提案がなされ、これを基金（社団法人「愛郷会」が管理）として地区の自主性を尊重し、住民が一つになってまちづくりに取り組んできた土地柄で、平成8年には、農林水産省より「豊かなむらづくり表彰事業」の天皇杯を受賞している。平成20年11月に、地域活動の拠点施設として、農家レストラン、市民農園、宿泊施設、体験



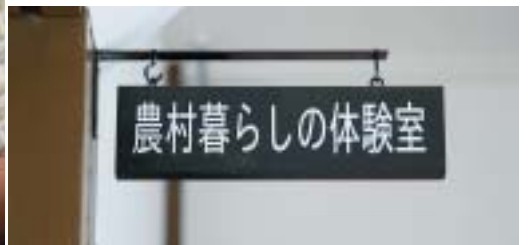
左手は宿舎施設



農業法人株式会社秋津野副社長の玉井常貴さん



校舎はきれいに改修し体験教室などに利用されている



学校らしさを残しているのが魅力のひとつ

廃校になった小学校を利用した秋津野ガルテン

コミュニティビジネス拠点施設

室、交流室等の多機能な施設を備えた「秋津野ガルテン」を開設した。

■主体の取り組み方

秋津野ガルテンは廃校となった小学校の木造校舎を改修して、再利用している。当初、田辺市は更地処分する計画であったが、これを「愛郷会」の支援を受けて買い取った（底地は「愛郷会」が所有し、これを借地。建

物は地元民が出資する農業法人株式会社秋津野が所有）。事業費は1億1000万円で、農林水産省の補助50%、県・市で25%、残り25%の約3000万円を地元が負担した。敷地内には以下の施設があり、地域交流の拠点施設としてプラットホーム的な役割を果たしている。

農家レストラン「みかん畑」

地域で採れた食材で、農村のお母さ

んが作るバイキング料理。週末は周辺の観光を兼ねて、900円のスローフードバイキングを楽しむ県外からの来場者も多い。

「農」のある宿泊施設

近くにオープンした市民農園と併用した長期滞在や各種研修の宿泊に利用（和室8畳×6室、16畳×1室）

暮らしの体験室

わら草履づくり、竹細工、葛工作など



農家レストラン「みかん畑」内観。地元の新鮮な食材でつくった料理が楽しめる

の体験教室に利用

都市と田舎の交流室

地域づくりの研修のほか、さまざまな研修や地域の集会場としても利用
農産物加工体験室

地域にある農産物を利用し、加工体験ができる。梅ジュース、みかんジュースなど、地域の食材の加工体験場
市民農園

64区画、一区画約30m²、利用料金3万円(年間)。オプションで管理サービスや野菜作り教室(有料)も計画している。

秋津野ガルテンを管理運営する農業法人株式会社秋津野の副社長の玉井常貴さんはNTTを早期退職して、地域コーディネーターとして20年以上、地域貢献をしてきたベテラン。「施設内の農家レストランは開設して8カ月で約2万人が来場。延べ35人のパート雇用を生み出し、食材は地場から供給するなど、秋津野ガルテンの売り上げは確実に地域に還元されている」と経済効果による地域活

性の可能性を示唆した。

■ ネック克服の仕組みと工夫

社団法人「愛郷会」から支援を受けるには住民の合意形成が必要であった。もともと地域意識が高い土地柄とは言え、「事業リスク」や「行政がすべき論」などの反対意見があり、その調整のために地区懇談会を何度も開催することになった。これを可能にしたのは平成14年に地元住民、市、和歌山大学が協働で作成した地域マスタープランである。住民自ら作成したことで、地域づくりの理念と方向性が明確になっていた。また、資金的には地域内外に呼びかけて1株2万円以上最大50万円以内で出資を募り、約300人から3330万円を集め、これで地元負担の費用を捻出した(1年後は株主約500人、4180万円に増資)。

施設の管理運営も「農とグリーンツーリズムを活かした、地域づくりを行う」ことを目的とし、農業法人株式会社秋津野が行っている。地元の多

くの人からの出資を受けて、地域のリーダーたちが運営に参加し研修やイベントなどに工夫を凝らしている。

■ 新しい役割と魅力

秋津野地域づくり学校

秋津野ガルテンでは経済産業省の支援を受けて地域リーダーの育成を目的とした「秋津野地域づくり学校」を開設。学校では一方通行の講座でなく、研修生と講師が議論し、地域づくりの課題と展望を見出す創造型研修を行っている。

平成20年度の第1回目は、北海道から岡山まで県外から集まった7人に、行政と経済団体、地元メンバーを加えて研修生17人で開催された。

みかんの樹オーナー制度

みかんの木のオーナー契約者になり、自分の名前がついた木から収穫ができる(年間料金3万円、100名募集)。

農業体験学習

上秋津は年間を通して柑橘類の収穫ができ、収穫体験やジュース作り体



「みかん畑」外観。テラス席もある



市民農園



秋津野ガルテンと連携している直売所「きてら」。ミカンの産地とあって、品揃えが豊富



「きてら」の敷地内にあるカフェ。東京からのUターン者が開いた

験が可能。地元の上秋津小学校には農業体験を10年間実施した実績があり、そのノウハウが蓄積されている。玉井さんは「農業体験学習は学童の心の教育や食育に効果的。周辺の農家民宿と連携して修学旅行生の受け入れを計画している」と新規事業にも意欲的。

直売所「きてら」との連携

「きてら」は秋津野ガルテンとは別会社であるが、地域活性化による最初の試み。平成11年に地元の農家をはじめ、商業関係者、サラリーマンから

なる31人が310万円出資して開設した直売所。1年目は倒産の心配もあったが、今では売上げが年間1億円までに成長した。これにジュース工場と秋津野ガルテンの売り上げを入れると年間2億円が見込まれる。玉井さんは「この3施設を巧く連携させ、来外者を増すことにより、さらなる地域の活性化を図りたい」と話している。

■今後の課題

秋津野ガルテンは順調に滑り出したばかりであるが、すでに次なる目標

を掲げている。

Uターン者の推進

地域の活性化が進めばUターン者の受入れ環境も良くなり、その増加も見込まれる。秋津野地区で特にUターン者を希望するのは、定着率が高いこと、および高齢者介護の担い手としても期待しているため。

高齢者の交流

高齢者に優しいまちづくりを目指しており、家に引きこもりがちの高齢者が自由に交流できる環境や交流施設をつくりたい。

プロジェクト概要

所在地：和歌山県田辺市上秋津4558-8
 敷地面積：3300m²（社団法人「愛郷会」から借地）
 施設面積：木造2階建て
 体験交流施設/延べ床面積 707m²
 農家レストラン/延べ床面積 80m²
 宿泊施設/290m²
 交付金：農山漁村活性化プロジェクト支援交付金/事業費1億1000万円（国50%、県12.5%、市12.5%、地元25%）
 事業名：田辺市都市農村交流促進施設整備事業費補助金（上秋津地区）
 事業期間：平成19・20年度、2008年11月オープン
 施行者（事業者）：農業法人株式会社秋津野

連絡先：農業法人株式会社秋津野
 〒646-0001
 和歌山県田辺市上秋津4558-8
 TEL.0739-35-1199
 FAX.0739-35-1192
 行政連絡先：田辺市役所農業振興課
 TEL.0739-22-5300
 施設内容：●農家レストラン 83.36m²、昼食は900円のスローフードバイキング
 ●宿舍施設 和室8畳（大人4名定員×6部屋）、和室16畳（大人8名定員×1部屋）
 ●くらしの体験教室 わら草履づくり、

竹細工、葛工作などの体験教室など。
 利用料金 1500円/時間
 ●都市と田舎の交流室 地域づくり研修、その他の研修に利用、いす40脚。
 利用料金 1500円/時間
 ●農産加工体験教室 梅ジュース、みかんジュースなど、地域の食材の加工体験場。利用料金 1500円/時間
 ●市民農園 場所：上秋津中学校付近、面積：一区画約30m²（64区画）。
 利用料金 3万円（年間）